



2019年秋・58号

信条・世に媚びず・枠にとらわれず
・言いたいことはハッキリ言おう

発行／吉田 進
携帯 090-3168-1063
FAX 072-863-0605
〒110-0015
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <http://www.kawaraban.ne.jp/>
E-mail : info@kawaraban.ne.jp



高齢者の海水浴は砂の中

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

街は変れど、思いは一つ。政治を変える。…………… 2
元号ってなんなのかしら!? 信州のロザリアン… 3
大金持ちは犯罪だ! 馬場 正雄… 4
憲法と改憲を考えるシリーズ9
 スイスのシステム
 小さい政府こそクールだ 宮内 酔祥… 5
しっぺ返しとプラスチック／平成を想う
 岩名 雅記… 6
おすそ分けのすすめ 池田 香代子… 7
自らの感性と若者世代の視点で
 お金をかけずに闘った
 東京区議会選挙 酒井 菜摘… 8・9
「メシア～洗礼者ヨハネの涙～」朗読劇のお誘い
 丸山 牧夫… 10

「ダブル選挙」の幻に踊らされた参院選
 野党選挙スタッフ… 11
力は正義なり、トランプは馬鹿力なり
 米国民よ 民主党に投票を 三田 栄考… 12
民主政治の夜明け 米沢藩主 上杉鷹山
 阿部 敏夫… 13
笑顔は見守られる愛から生まれるらしい
 中田 恭子… 14
「命に響く」本を売る 前島 咲子… 15
LIFE CROSSING余録…………… 15
編集後記…………… 15
偏見のサングラスを外しましょう
 ～イラク戦争での文化交流を通じて～
 増山 麗奈… 16

街は変われど、思いは一つ。政治を変える。



かつて天王寺公園付近は庶民の憩いの場だった



変貌する太子町あたりの商店街には「釜ヶ崎芸術大学」



日本の高度成長を支えた日雇労働者が集まった「あいりんセンター」が閉じた。そこで抗議のテント

いろいろのこと思い出す選挙かな

参院選の結果が出た。すぐ当確、万歳で驚いた。出口調査だが、われわれは、そんなスピディな時代に生きている。さて小生は、先の戦争で九死に一生を得た。憲法9条をカジる与党が気に入らん。改憲勢力は $\frac{2}{3}$ を切った。

「これでよし1000万年の屋敷かな」

大西中将の辞世の句を思い出した。彼は、特攻出撃の責任者で、命を絶った特攻兵との約束通り、敗戦翌日、割腹自殺した。豪気だ。切腹はいやだが、今の議員諸君にそんな覚悟があるのか。

野党当時、自民の安倍党首は、「輪転機を回して、日銀に無制限にお札を刷ってもらおう」と無責任発言。今選挙では「トランプ大統領とゴルフばかりしているというが、彼とは、『シンゾー』と呼ばれ、何でも話し合う仲：』と言う。じゃ、自分ファーストで、世界に火をつけて回る彼に「ヤメロ」と忠告をしたらどうか。

また、破たんしたアベノミクスを認め、生活苦にあえぐ大多数に「国民ファースト」の政治を行ったらどうか。

ちなみに、ドイツのメルケル首相は、非白人の民主党女性議員を『国へ帰れ』と攻撃したトランプ氏に、「異なる国籍の人々が貢献してできたのが強いアメリカ。私はトランプ氏とは、はっきり距離を置く」と述べている。安倍さんの師がここにいる。

世の中は地獄の上の花見かな（一茶）

世は移り街は変われど人は生きる。釜ヶ崎の今そして住民の写真をそえた。

地獄なら極楽にしてみようホトトギス

元号って

なんなのかしら!?

長野 信州のロザリアン

元号って何？ 天皇制って

…、政府とマスコミが天皇交代で大騒ぎしている事に違和感を感じて、春に東京教育大 学名誉教授の君島和彦さんの『生活の中の天皇制』の講演会を聞いてきました。天皇について最初に書かれている古事記(712年)と日本書紀(720年)は、奈良時代の天武天皇(673~686年)の勅令で編纂され、日本書紀には紀元前660年が初代天皇の神武天皇とあるようですが、これは縄文時代後期にあたり架空の人物といわれています。奈良時代の貴族の淡海三船が神武天皇から44代の元正天皇まで1人で命名したそうで、天皇制のスタートからして神武天皇の血を全て天皇が引き継いでいるという『万世一系の天皇』は、全くのデタラメと聞いてとても

驚きました。

平安末期に平清盛の武家社会が始まり、江戸時代(1867年)まで継続された時間も、南北朝に分かれた天皇家は仏教徒だったそうで、血筋が無い武家社会が権威付けに天皇家を利用して、太政大臣・関白・征夷大將軍などの位を貰い、自らの正当性を保ち、天皇は政治権力を失った時代です。

江戸末期に欧米諸国が開国を迫り、薩摩藩と長州藩(のちの安倍首相の山口県)が徳川幕府を倒して近代国家を作り、暴力に依る革命を正当化する為に、天皇の権威を利用したのが明治維新で、天皇は権威と権力のトップに置かれ、立憲君主になったのです。伊藤博文が新国家で国民を統合する為に『万世一系の天皇』として利用し、大日本



佐渡の古民家に飾られた皇太子ご婚約の切り抜き

帝国憲法で神道国家の近代天皇制を作ったという歴史は、明治から150年の時間の束縛だったと思いました。

戦争の最高責任者は、誰？

この制度で先の日本が行った侵略戦争の最高責任者が、昭和天皇だったのです。戦勝国は天皇制の廃止も唱えたそうですから、それが実行されていたら、天皇制は今ほとんどな状況になったでしょうか。

昭和天皇は最高責任者として処刑されなかったのですか

ら、せめて責任をとって退位すべきであったと思いました。

日本統治で天皇を利用したいアメリカのGHQと、天皇制を維持したい日本の支配者たちの思惑が一致して、日本国憲法で『天皇は象徴』として戦後74年の今に至っているのです。

30年前、昭和天皇が亡くなった時に、連れ合いが買ってきたアジア諸国の新聞の見出しは、『H I R O H I T O D E A D』でした。職場の先輩が天皇と同じB型なので、天皇のために献血をして皇居で記帳までしてきたと自慢していた時、私は戸惑いを覚えました。

君島先生によりますと、元号とは1868年に明治と改元されて、1人の天皇が1つの元号を使うと定められたものの。元号の意味は中国の皇帝の特権として、時間を支配することからきたそうです。

『時間と空間を支配すること』= 『主権者』となるそうで、元号を使うことは精神的に天皇の支配を受け入れることで、強い違和感を覚えます。天皇と皇族の身分関係は戸籍法の適用を受けない。国籍も戸籍もなく、憲法上も法律上も日本国民ではないそうです。知らなかった！納税の義務も無く、大嘗祭も神道行事なので政教分離に違反するとの事で、国民の税金で大金をかけるのは少し控えて欲しいです。ただ、天皇には基本的人権も自由も平等の権利もない、気の毒で同情する面もあります。

平成天皇が自分の父の行ってきた事への贖罪の念から、憲法にある象徴としてのお勤めとして、長きに渡って戦争で犠牲になった地域への慰霊の旅や、被災地の人々への励ましの祈りと行動には、私も敬意と共感を覚えました。しかし、権力者は安倍政権の如く政治的に利用する危険もあるから、主権は国民にあるという意識にもう一度立ち返って、近代から現代の歴史を学ぶ事や、考える事が必要だと思いませんか。

大金持ちが犯罪だ！

大阪中央区 馬場 正雄

なんで「富裕層」って言うのか！どうして「格差」って言うのか！金持ちや貧富の差って言えば良いじゃないか。日本社会を牛耳る輩が彼らの発信力、影響力を行使して、人聞きの悪い「金持ち、貧富、軍事力」っていう言葉を避けるように誘導した。私は金儲けする彼らの能力を評価するが、儲けすぎて涼しい顔をするのは人間として許せない。大金持ち層が示し合わせて作った経済社会システムの税法では100倍以上儲ける納税者の存在を許す。ならば彼らに90%課税すべきだ。

ところが現代は違う。もつと上品に、きれいに、分からないうちに、しかも広範囲の多数から巻き上げるのだから人々

は全く知らない人も、それを利用したら、知らぬ間にお金を取られる仕組みになっている。だから被害者は加害者に腹を立てない、怒らない、気が付かない。ある意味では昔よりも狡猾な制度になっている。太陽王と言われたルイ14世は王権神授説なるものを唱え「自分の絶対権力は神から与えられたものだから庶民は

の説だ。税金優先の国家主義より人々の幸せ優先の国民主義を取るべきだ。
平均所得の100倍も取れる年収5億円者は犯罪だ！1億以上は増税を！

500万ドル(約178億円)とか。彼らの収入は間接的に我々が負担している。球団が採算取れているから良いとか、ファンが納得しているからというの、封建領主に騙されている農民と同じだ。儲けすぎ、極端な不公平は悪だと皆が思うべきだ。孫正義の所得は我々庶民が払うSOFT BANKの料金から入ってくる。ZOZOタウンの前沢社長には庶民が通販サイトを使うだけで自動的に彼の懐に入る。

文句を言うな」と理屈付けた。現代では「お金儲けするのが悪いのですか？」と聞き直った村上世彰さんなどが、頭一つでやり方次第で超々大金持ちになれる制度を礼賛している。私の知人の経営層の何人かは「所得が平等より一部の人が金持ちになった方が税金が大きいからその方が良い」とのたまう。これは貧乏で多くの人が泣いても税金が多いほうが良いと



こんな理論がまかり通るのは勝ち組が国民を舐めているからだ。どうして国民はもっと怒らないのだろうか。

資本主義は自由に経済活動ができて能力に応じて金儲けができるのだが、行き過ぎがあればブレーキをかけるべきだ。発言力、発信力、影響力の強い人は成功した人だから現在のシステムが良く機能していると思いたい傾向があるが、庶民、大衆が社会の仕組みを作るならもっと公平なシステムを創つたに違いない。不公平は資本・自由主義の大きな欠陥だ。本来、社会主義は不公平に対する是正手段として考えられたが、社会主義圏が負けたから資本主義者は大手を振って不公平を拡大させているのが現代であると。

その昔奴隷制社会では支配者がムチを持って弱者をこき使った、封建時代は武力で農産物を取り上げた、小作時代は権力によって収奪した。と

はその痛みに気が付かない。ごく一部の、頭も良いし格好良くセレブと称する人が、一芸に能力ある者が間接的に庶民から巻き上げるのだから弱者はその認識に乏しい。今で

この経営層の何人かは「所得が平等より一部の人が金持ちになった方が税金が大きいからその方が良い」とのたまう。これは貧乏で多くの人が泣いても税金が多いほうが良いと

は不公平に反対するは正手段として考えられたが、社会主義圏が負けたから資本主義者は大手を振って不公平を拡大させているのが現代であると。



直接民主制の国民投票の様子
(グラールス州のラングマインデ)

合計31年間の海外生活で、ドイツやフランスに比べ、スイスは20年と一番長かった。スイスに滞在したのは、1976年から96年で、既に20年以上前の話で、移民、外国人労働者が増えた現在は、国民の対応も昔と変わってきているようだ。日本、西ドイツ、スイス、フランスの4カ国で、合計39年間のサラリーマン生活で所得税を支払った。税制を通して、その国の在り方、国民性が見えてきたのは、興味深く貴重な体験であった。

「ペニーワイズ、パウンドフリーリッシュ」(一文惜しみの百失い)と英国人はスイス人を揶揄するけれど、なかなかどうして、スイスは金儲けがうまい。国の税制も賢くできている。正式国名は『スイス連邦共和国』と言い、アメリカやドイツのように地域性

憲法と改憲を考えるシリーズ9

スイスのシステム

小さい政府こそルールだ

東京 宮内 酔祥

が濃い連邦国家である。800万人足らずの小国であるが、4つの公用語が使われている。ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語である。国会の議事録などの公文書やスイスフランのお札はこれら4つの言語で印刷されている。個性の異なる民族の集合体であるが、良くまとまっている。それは、州を

の国々に比べれば、平穏で安心して住める国である。ウイリアム・テル伝説が有名だが、4つの地域が同盟を組んだのがスイスの始まりである。現在、26の小さな州(準州も含む)からなる連邦国家である。国防、外交などは連邦政府が担当が、内政は主に各州の責任で、大きな権限が与えられている。予算、税制も然り。したがって、所得税率も税金の使い方も州によって異なるから、自ずと競争も厳しく、田園地方の州でも活気があり、住民も満足しているようだ。

年金制度はあるが、連邦は小さな政府を目指し、社会保障は極力抑えている。健康保険は原則自己負担である。所得額により、入る保険のクラスが決まっており、病院、病室に貧富の格差がある。歯の治療にはかなりお金がかかる。リスクに備えるのは個人の責

任とするのが基本理念で、国はあまり面倒を見てくれない。欧州の他国に比べ、スイス人の貯金率が高い理由だろう。給料も会社による源泉徴収はない。国民はサラリーマンも含め各自が、毎年確定申告をしなければならぬのだ。これには驚いた。申告書にサインするのだから、庶民も、節税、控除に敏感にならざるを得ない。さすがに、国民発議の国民投票を取り入れている直接民主主義を基本としているスイスの連邦政府、州政府、市である。

だから、一般庶民も政治の話が好きだ。たとえ中卒の人でも、一家言持っている。小学校の教育から、個性を大事にし、自分の考えを他者に伝えるプレゼンテーション力、コミュニケーション力を重視している。私の子ども二人は話し下手で、ギムナジウムに入るまで、数学、理科はまあまあとしても、自分の意見をしっかりと述べなければならぬドイツ語、社会、歴史などの科目は甚だ苦手であった。

スイス人もビール、ワインをよく飲み、社交好きである。私も、アフターファイブの飲み会によく誘われた。社内、業界、PTAとテニスクラブなど、どのパーティーでも、ゴシップの後の主な話題は、政治批判と税金になった。自分で計算して払った税金による国や州の予算だから、納税者のチェックは厳しい。

不満、疑問点があれば、規定の署名を集めて国民投票に持ち込み、賛否を問う体制が古くから確立されている。国民が提出した議案が可決されるには、スイス全体の投票者の過半数の賛成と、過半数の州の賛成が必要だから、一時的な感情で間違った方向に進む心配はほとんどない。国民の厳しい目が光っているから、議会も役所もいい加減な仕事はできない。贈収賄、脱税などのスキャンダルは、滅多に聞いたことがなかった。

日本の大臣やお役人の先生方、スイスのダボス会議に出張されるのは結構ですが、ワインを飲みすぎて、コンパクトで無駄のない『小さな政府』を実現しているスイスの政治体制と税制をじっくり学ぶことを忘れないでほしい、とつくづく思います。

時間を遡行できないならばせめてこの脚で/ 岩名雅記の Cm ジャニー 30

しっぺ返しとプラスチック／平成を想う

いわな まさき／舞踏家、映画監督（フランス／南ノルマンディ在住）

す。やがて東京オリンピック（1964）を境にモノと金を追求する高度経済成長の時代に入ったわけです。日本の公害もカドミウム公害を除き、ほぼこの頃から顕著になりました。よしんば高度経済成長を是としたとしても平成



平成や令和とは縁遠い異国の街・アテネ
（今年6月舞踏のワークショップ投宿先にて筆者撮影）

見せかけ、あるいはバブル期前のような成長を夢みている時代錯誤の感覚。

そればかりではありません。もつと恐ろしいのは精神も倫理も道義も崩壊した最悪の時代を今まさに我々は生きているのです。政府の痴態／醜態は言うに及ばず、電車に乗れば老人、妊婦、身障者のための「優先席」はスマホで夢中になる若者に占有されています。犯罪といえ

ばかつては貧困や差別が原因であったものが、今ではフランス

トレーションからくる「理由なき犯罪」

の時代に入っています。平成とは「今だけ／金だけ／自分だけ」の身勝手な夢に

うなされながら、世界の趨勢の変化と日

本の劣化を認識出来ずにただただ「しっぺ返しされた」30

年だったのです。

この醜悪な時代を「無呼吸／無時間」のプラスチックに象徴させてみましょう。

1950年にはわずかに1万7000トンだった日本のプラスチック生産量は、15年後には170万トンに急増、

1995年には1400万トンに突入。総じてこの60年ほどでプラスチックの生産量と使用量はほぼ800倍になっ

たわけです。

プラスチック（合成樹脂）とは何か？松ヤニなどの天然樹脂とは異なる合成樹脂には「呼吸」がないのです。呼吸とは言うまでもなく生き物の「最初の動き」を生み出す原動力です。呼吸は生物だけでなく建造物に使用される木材や石や鉄にもあるのです。それが全てプラスチックに置き換えられてしまうと世の中は「無呼吸」になります。

もう一つ。木や石や鉄には「時間」があります。古びてくればそこに味わいが発生します。骨董の木造彫刻を愛

でる感覚が私たちにあるのは「時間の経過」を尊重する気持ちがあるからに他なりません。ここで言う「時間」を人に例えれば生まれてから今日に至る「カラダの時間」です。一方でプラスチックには「時間」がありません。絶

えず無時間／無呼吸の美しさが求められ、少しでも汚くなれば廃棄される運命にあります。より正確にいえばプラスチックは「時間」を求められず、「時間」を拒否される命運にあるのです。

私は昭和を44年生き、平成を30年生きた人間としてこの「無呼吸／無時間」のプラスチック時代を心から嫌悪します。いつかこの「無呼吸／無時間」のプラスチック時代が終焉し、貧しくても心とモノがバランスのとれた真に豊かな時代が再び来ることを祈っています。AI（人工頭脳）の時代がやってくるのだからそんな心配はご無用と言わなれ。AIの成果を最後に決定するのはやはり我々の「心とカラダのバランス」感覚なのです。



稽古中の筆者（Chiara Tabaroni撮影）

30年に渡る平成が終わり令和に入りました。1945（昭和20）年生まれ、昭和人間である私は平成の30年を含め現在に至る60年ほどの日本に対して大いなる疑問を感じています。

第二次大戦が終わった5年後からの10年間（1950～60）はモノと心のバランスのとれたベルエポックでした。モノが少ない分、豊かな心でそれを補い貧しいながらも人々は「額に汗して」明日を建設する活気があったことを子供ながらもよく覚えていま

は「疑問の30年」でした。

平成から令和の現在。政府や財界が躍起になって経済の成長を鼓舞／賞賛して見せても明らかに破綻していることは目に見えています。経済成長ができていないのに成長を

おすそ分けのすすめ

作家・ドイツ語翻訳家

池田 香代子

この20年、お金持ちが大金持ちになりました。今年の1月、イギリスに本拠を置く国際NGOのオクスファム(Oxfam)は、世界でもっとも裕福な26人と、世界人口の所得の低い半数、38億人の資産が同じだ、という報告を出しました。こうした、数人の



資産が何十億人のそれと同等という比較は、今世紀に入ってすっか

りおなじみになり、その差は年々広がっています。オクスファムの同じ報告によると、資産を10億ドル以上持っている大金持ちたちの総資産は、毎日25億ドルずつ増えているそうです。すから、当然です。



薔薇キャンペーン発足の記者会見

左端：安保関連法に反対するママの会発起人 西郷南海子
中央：代表立命館大学教授 松尾匡 右端：池田香代子(筆者)

「ワールド・ウェルス・リポート」2018年版によると、日本にも100万ドル(1億1000万円)以上の投資資産を持つ大金持ちが316万人いるそう、これはアメリカに次いで世界第2位です。国全体がギリ貧に向かうこと、格差が広がること、大金持ちが資産を増やすこと、

これらは一つの現象の三つの顔なのでしょう。

想像ですが、年収1億円の人と年収10億円の人が消費に回すお金は、それほど違うわけではないのでしょうか。わたしがお金の使い道を知らないだけかもしれませんが、年収と同じ10倍とまではいかな

いと思うのです。お金持ちほどお金をあまらせる。ありあ

まるほどお金を持っているのがお金持ちなのですから当たり前の話で、収入があつというまに生活費や税金社会保障費光熱通信費や教育費に消えてしまい、貯蓄するには強い

意志でがんばらねばならないといわたりわたしたち99パーセント・ピープルとはわけが違います。

大金持ちがすぐにばつぱとは使わないお金は、一部は貯蓄、一部は投資に向けられるでしょう。そして、お金がざくざく入ってくれば、気軽にハイリスクハイリターン投資にチャレンジしようという気にもなるのではないのでしょうか。その投資先は、海外であることも多いでしょう。それどころか、税金から逃れるために、外国のタックスヘイブンに飛ばすこともあるで

しょう。つまり、大金持ちのお金はあまり国内経済には回らないのです。ですから、年収10億円の大金持ちが一人いるより、年収1億円のお金持ちが10人いるほうが、もっといえば年収1000万円のお金持ちが100人いるほうが、社会に回るお金は多いと思うのです。

消費税よりお金持ち増税を

大金持ちが増えれば増えるほど、大金持ちの資産が増えれば増えるほど、社会からお金が吸い上げられ、どこかに行ってしまう。その分、社会は貧しくなる。ほんのひとつまみの大金持ちに富が集中する格差社会では、トリクルダウンなど起きるはずがありません。わたしたちは、いつか滴ってくるおこぼれちょうだいを期待して、あんぐり口を開けて待っていました。ほんのひとつたらしも落ちてこないどころか、もう喉はからから、顎はいいかげんくたびれて外れそうです。

わたしは、お金を増やす才能と情熱を持った人びとを否定はしません。けれど、ほん

の少し公共に目を向けていただきたいと思えます。おすそ分け経済を受け入れていたいただきたいのです。これほど格差が拡大してしまつた以上、富裕層はノブリス・オブリージュを見せてほしい、とわたしは思っています。

『「反緊縮！」宣言』の筆者の章より転載(亜紀書房、2019年5月刊) 文章には微調整を施しました。

※池田香代子さんは薔薇マークキャンペーンの発起人の1人で運営委員でもある。この運動はいま欧米では「反緊縮」を掲げた経済政策が大きなうねりになりつつあるという。若年層を中心に民衆の熱烈な支持を集めているこの現象とは何なのか? 以前からいち早くこのトレンドを分析してきた立命館大学経済学部の松尾匡教授が、今回、2019年統一地方選と参院選で「人々の生活のために積極的な財政支出」を掲げる予定候補者に「薔薇マーク」を認定するというユニークなキャンペーンを立ち上げた。詳しくは『薔薇マークキャンペーン』検索を。

※ノブリス・オブリージュとは、フランス語で直訳すると「高貴さは(義務を)強制する」を意味し、一般的に財産・権力・社会的地位の保持には義務を伴うことを指す

ママさん議員・癌サバイバーとして 世の中のしくみ変えたい

自らの感性と若者世代の視点で
お金をかけずに闘った東京区議会選挙

東京・江東区議会議員 酒井 菜摘なつみ

「お母さんが明るく子育てできれば世の中はきっと明るくなる」その言葉に感銘を受け私は助産師になった。医療現場で勤め感じたことは、お母さんが明るく子育てするためには世の中を変えなければいけない、ということだった。どこの病院、組織にいても何かの仕組みを変えること

は容易でなかった。自分に力があったらなあと思うことの連続だった。日々の生活は政治と繋がっているんだと感じるようになったのは、28歳で

がんの闘病を経験し、不妊治療、そして子育てを経験するようになってからだ。

がんの闘病と不妊治療は、経済的にも精神的にも負担の大きな治療で仕事との両立にも苦労をした。なんでわたしこんな目に……と思うような辛い日々が続いたが、弱音を吐いたり、助けてもらうことで、頼ってもいいんだと思えるようになった。

がんや不妊治療は声を上げにくく、たくさんの方が頑張っているのに、認知されにくい領域だ。離職を考えるほど、時間やお金、体力が取られるものであり、実際にも多

くの方が離職をしている。一生懸命働いて納税してきただけれど、社会資源による恩恵は何一つなかった。これはおかしい!と思った。

当たり前のように続いているかと思っていた人生が終わるかもしれない、という体験も大きな転機となり、元氣な身体があるうちは社会に貢献し、私みたいに辛い思いをしている人を少しでも減らせるよう、世の中を変えたい!と思うようになり、一念発起、政治の道へ進んだ。

余裕ない若者たち

選挙を経験して感じたことは、お金をかけなくても、選挙は戦えること、仕事を失うリスクがあることは大きな障壁となること、若い世代の政

治参加が必須であること、

若者の政治への無関心、投票率の低さが若者向けに考えられた

政策が少ない、一つの大きな原因だということだ。

32歳の若者、かつ女性が政治活動するのは珍しいはず。なのだが、子育てしやすい街にしたいと訴えても、若い世代がチラシをほとんど受け取らない。思い返せば、私もそうだ、それまで、配る立場になったこともなければ、ほとんどチラシを受け取ることはなかった。ゴミになるからだ。そして特に朝は余裕がない。みんな、目的の電車に乗って通勤することで頭がいっぱいなのだ。

そこで、チラシをポスティングすることにした。駅に立つ曜日を意識して、周辺の住宅にポスティングして回った。ボランティアで友人や党のパートナーズの方が協力してくれた。なにより、夫は日々仕事の帰りにポスティングに尽力してくれた。

「表に出での活動はしない、俺にできることはポスティングくらいだ」ということと、「ギリギリまで仕事を続け、保育園を退園させないこと」が夫との約束であり、出馬の条件だった。

定番の手法使わず

保育園を退園させないためには無職の期間は3ヶ月間しか認められなかった。選挙の半年前に退職する計画は泡となり、準備不足、時間も限られた選挙となった。選挙といえば定番のものは選挙カーと事務所と公選ハガキ、電話かけたが、私はどの手法も使わなかった。それは、私にとって迷惑であるのと同じように、同じ世代の方もそうであろうと容易に想像がついたからだ。

その代わり、選挙ポスターを一枚でも多く貼るよう努力し、チラシのポスティングは4種類行なった。駅でのピラ配りは毎日行い、朝以外にも昼間のスーパー前や子ども家庭支援センターなど、自分のことを支持してくれるであろう区民の方へ知ってもらえるよう露出する機会を多く作った。そんな戦い方で勝てるのか、そう言われることもあった。

事務所・選挙カーなし

だが、選挙カーは我が子が



街頭での酒井さん

騒音で起こされてしまっていて悲しい経験をしたので使いたくなかったし、それまで自分が活動してきたエリアもそんなに広くはなかったたので同じエリアを重点的にやろうと考えていた。事務所は金銭的な問題と、自分だったら立ち寄りたくないので選択肢にはなかった。公選ハガキと電話も行っていなかったこと、そして何より、私ができるような手法で連絡を受け取っても投票行動には結びつかなかったから選択肢になかった。朝、昼、夕方と街宣活動を計画し、合間では自宅に帰って休憩、1人になる時間や、短時間の休息でも横になることができたので、私自身には合っていた。ポランティアメンバーが休む場所を確保するという観点からは、次回の課題として対策を考えたい。

子育て世代の賛同費に

活動を続けていくうちに少

しずつ応援の声が届くようになっていった。「選挙カーを使わないでくれてありがとうございます」「チラシ読んだよ」「私もがんばるの」「あなたのこともっとたくさんの方に知ってもらいたいから、もっと元気よくね、もっと大きな音でいいんじゃないの」「立憲、応援してるよ」「私も看護師(助産師)です」「今貴方の投票に行ってきたよ」本当に



助産師として入院中の赤ちゃんを抱っこ

様々な方から励ましの言葉を頂戴する。特に小さなお子さん連れれたご家族から大きな領きや激励の声を頂戴した際

には感激で思わず泣きそうになったほどだ。選挙最終日の演説は、本当にこれでいいのか迷ったが他の候補者が20時まで走っているのに私は18時前に終了した。それまでも、夜間の活動はしなかったからだ。当選後も育児のゴールデンタイムである18〜20時半までは、活動はできない。選挙中だけ無理しても仕方がないと思っただ。選挙カーを使わ

間達、家族の協力のおかげで選挙を終えることができた。その感謝の気持ちと、やれることはやったという達成感

ず、事務も持たず、少ないポランティアメンバーのみで構成された弱小陣営ではあったが、私に賛同してくれた仲間

で、最後の演説では初めて涙が流れた。

行政改革に全力で活動

選挙開票日は自宅で結果を待っていた。とてつもない緊張と不安で押しつぶされそうになり、結果を待たず泣いていたが、当確の知らせを聞いた時にはやはり涙が溢れた。しかも4622票、47人中6位という結果だった。新人候補では1位であった。どこにいるかわからない皆さんの方々に感謝の気持ちでいっぱいになり、同時に同じように頑張っている人の多さや、一人ひとりの想い、期待の大きさをずっしりと感じた。スタートラインに立って1ヶ月半、初めての定例会で、さっそく議会質問の機会を頂戴した。これまで選挙で訴えてきたことをそのまま大綱3点にして質問した。期待している答弁は帰ってこなかった。自分の無力さを感じるとともに、変えられるまで追及

お母さんが明るく子育てできれば世の中は明るくなる

していく覚悟も持っている。ママさん議員として、ガンパイバーとしての今後の課題は働き方だ。議員にはプライベートも休みもない。これまでも、子育てをしながら、自分の睡眠時間を削るしかない日々だった。家族を犠牲にしたり、身体を酷使するような働き方は避けたい。再発して死ぬわけにはいかないからだ。命懸けで産んだたった1人の宝物と、夫との生活と、自分の身体も大切にして、働き方を模索していきたい。そして、私に温かい付託を頂いた4620人の方がいるように、がんや不妊治療、子育てなどを今頑張っている方、苦しい思いをしている方はたくさんいるのだ。困ってからは遅い。今何も困っていないという人も明日大きな病気を患うかもしれない。声を届け、行政を改善できるように全力で活動していく所存だ。そして、4年後の選挙も見据え、私の活動に賛同したり、区政について少しでも考えるきっかけになり、政治を身近に感じる方が増えるよう、創意工夫し活動していきたい。

「メシア〜洗礼者ヨハネの涙〜」

朗読劇のお誘い

東京 豊島区 丸山 牧夫

洗礼者ヨハネは今から約2000年前に古代ユダヤで活躍した宗教家だ。多く絵画に登場する。彼の広めた洗礼は今も多くの教会で行われている。人物については「聖書」や「ユダヤ古代誌」に一部紹介されている。記録の少ない時代に生きたこの人の歩いた道を正確に記述することは容易ではない。資料の片隅に登場する人へスポットライトを

当てるには多くの調査や研究が必要だ。私は32年前、この人の夢を見た。なぜ夢に現れたのか、理由は不明だ。それまで、この人について知識も関心も持っていなかった。夢に現れた洗礼者ヨハネの姿を30年以上経った今、はっきりと思い出すことができる。あまりにも鮮烈な印象だったからだ。詩で当時のことを案内してみよう(左)。

顔

空中に顔が浮かんでいる
 大きな顔 黒い皮膚
 顔は汚れている 髪は伸びて乱れている
 顔に涙が流れている 大きな涙だ
 なぜ泣いているのだろう
 じっと見ているとゆっくりと
 暖かさが伝わってくる
 広くて深い思いを感じる これは一体何だろう
 傷ついている この人は深く傷ついている
 憂いている この人は人間全体を憂いている
 なぜこんな人がいるのだろう
 なぜ目の前に現れているのだろう
 泣いている 人間のために泣いている
 人間全体のために泣いている
 どうか泣かないで 私も悲しくなってくる
 伝えたいことを教えて
 きっと熱心に伝えるから
 突然 不思議な言葉が流れてくる
 「バプテスマ ヨハネ コリント」
 何のことか分からない
 ただ大事な言葉だと直感する
 「バプテスマ ヨハネ コリント」
 何度も繰り返しつつぶやいてみる
 仕事を休んで考える
 涙のわけはわからない
 その頃からだ
 この不思議な事実を伝えようと決めたのは

洗礼者ヨハネはヨルダン川でメシア(救い主)と呼ばれていた。

聖書の中に彼の記述がある。ラクダの皮衣を着、腰に革の帯をしめ、いなごの野蜜を食べていた。

町ではなく、荒野を歩いていた。その姿を見て、ユダヤの民衆は古くから伝わるメシアにふさわしいと感じた。多くの民衆が川に集まってきたと当時の記録に残っている。



メシアのチラシ

不安な気持ちで支配する時代、誰もが道を探し永遠の存在を探していた。荒野を歩き神と会話するヨハネに、人々は新しいメシアが現れたと期待した。ヨハネは神の言葉を聴いて人々に伝えていた。彼は預言者(神の言葉を預かる者)として活動した。

誰も神の言葉を聴くことができない。彼のもとに人が集まってくる。洗礼者ヨハネがどのような活動をしていたのか。

正確には分からない。神の言葉を紹介したのであるか。聖書には「悔い改めよ」という言葉が記されている。ヨハネの心の叫びを聴くことにした。シユリーマンが伝

説の都市トロイアを発見する情熱を思い出した。ヨハネの大粒の涙は確かに時を超えて伝わってくる。ヨハネは人々に洗礼をした。その中に確かな主張がある。人々が洗礼によって何かに気がつくことだと。けれど大きな涙を流していた理由が分からず何年も考え続けた。

歴史の中に埋もれていたこの芝居の主人公、洗礼者ヨハネに関心をお持ちになったら、ぜひ9月14日南大塚ホールに足をお運び下さい。洗礼者ヨハネの意識が皆様を招待してくれるでしょう。



メシア舞台

今を生きる皆様だからこそ涙の理由が理解できるのではないのでしょうか。時空を超えて伝えてくる洗礼者ヨハネの言葉にあなたも耳を傾けてみませんか。

朗読劇「メシア〜洗礼者ヨハネの涙〜」 脚本・出演：丸山牧夫
 日時：2019年9月14日(土)①13:00～②17:00～ 場所：南大塚ホール
 お問い合わせ：一般社団法人サルピーノ 03-5950-5730 salpino_peace@yahoo.co.jp

前売：1,000円 当日：1,200円

「ダブル選挙」の幻に 踊らされた参院選

野党選挙スタッフ

戦後二番目となる低投票率の理由もあつてか、全選挙区合計で自民党は全有権者の18・9%の絶対得票率で2割を切った。それにも関わらず、組織票をまとめた自民党が5割を超える議席を得た。果たしてこれは仕組まれたものなのか。国会でのプロセスをふりかえると、先の通常国会、政府与党は①対決法案をつくらない②安倍総理の出席をつくらない、を徹底した。水道法改正や外国人労働者問題など議論をよぶものは先の臨時国会ですませ、通常国会では「幼児教育無償化」など野党の対応が割れる法案を準備。4月以降、衆議院規則に基づき予算委員会を開けたい野党の要求を拒み続けた。対する野党も統計問題や、「与党の審議拒否」が続いている実態を明らかにすることで抵抗したが、安倍総理側近

の「増税取りやめなら信を問う」という観測気球や、記者の発言に依る形で菅官房長官の「不信任決議案提出は解散の大義になる」との発言に大手メディアは取り込まれた。大手メディアはこの「解散の大義」ロジックが破たんしていることを報じなかった。憲法が内閣総辞職または衆議院の解散を求めているのは内閣不信任案が成立した場合であり、提出と解散は関係ない。立憲民主党の辻元清美国対委員長（「解散の大義になるといふなら」）不信任を成立させてくれるということと？」という発言こそ適切な返しだったといえる。

最大の早期解散派といわれた麻生大臣自身が、所管する金融庁が引き起こした年金2000万円問題でさらに「受取拒否」という致命的なミスを行った。つくらせないはず



投票前夜、恵比寿駅前前で訴える塩村あやか候補(当)と比例区の奥村政佳候補(落)。躍進した立憲だが東京では1名だけ、大阪では落選した

も。更に、野党が解散対応に追われ、参院選の準備が遅れたことである。とくに、現職議員や元議員など「公認候補予備軍」を抱える国民民主党とは違って、候補者発掘からスタートしなければならぬ立憲民主党は衆院選の準備に手をとられた。

もうひとつは、解散風をやませたことで、参院選まで「なかつたかのよう」に世間の関心を失わせたことである。安倍政権が続けてきた「公平報道」というクレームも功を奏した。とくにテレビは委縮して参院選の「ニュース／報道」番組は前半戦に限れば、前回から約3割減、民放だけなら約4割減と著しい。そうしたなかで、「れいわ」や「N国」といったいわゆる諸派が躍進した。「れいわ」が躍進した最大の理由は、次の山本太郎氏のひとことに凝縮されていると思う。「寄付者に対し」おかずを1品減らしてくれだ。政策課題として

の争点が見えづらかった今回の選挙で、有権者は「どの立ち位置にいる政党（候補者）か」で投票行動を決めたのではない。立憲民主党のフレーズは、2年前と同じ「立憲民主党はあなたです」だったが、時代とのズレを感じた。「あなた」は年金や低賃金、長時間労働でますます苦しくなっているのだ。こんどは「私」立憲民主党が「あなた」を助ける番だ、という論理転換が必要だったのではない。

力は正義なり、 トランプは馬鹿力なり 米国民よ 民主党に投票を

東京 深川 三田 栄考

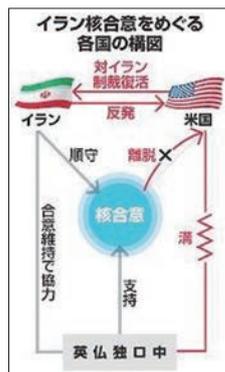
Dear President! 貴殿が行った唯一の善行が米朝会談です。米朝両首脳は感情に走らず、冷静に対話を続けようとする姿勢に敬意を表します。ベトナムでの会談がもの別れになった後も互いに相手を非難することがなかったのがホッとしました。大統領選向けのプロパガンダでも良いです。米大統領が北に足を踏み入れた意義は大きいです。じっくりと交渉を積み重ねて信頼を重ねて非核東アジアを実現していただきたい。そして我国に3000億円の無駄金を使わなくて済むようにしてもらいたい。我国の首相は貴殿に追随することを最大の外交方針となし、粉骨砕身貴殿に尽くし続けています。恥ずかしながらノーベル平和

賞までご推薦申し上げた。しかし、貴殿が『イランの核合意』を脱退して寝た子を起こ



板門店の3人

したので、シンゾーはイランにまでお使いをしたのだが、逆に火を点けた結果になり申した。残念ながらシンゾーには平和外交は似つかわしくな



イランに飛ぶくらいの熱意がないと……。貴殿と空母化をめぐす自衛艦「かが」に乗り込んで軍人を激励するのが貴殿の本意でしょう。貴殿も7月4日の独立記念日に政治色と軍事色を強引に持ち込んだように軍事外交がお得意なように困りもんですな。そのシンゾーさんは貴殿を見習って国際捕鯨委員会を脱退して世界の秩序を乱し始めた。『自由・公平・無差別な貿易』とG20議長国としてまとめておきながら『半導体材料の輸出規制』を強めて最隣国の韓国との軋轢を拡大させてしまった。どんな理由があろうとも報復は反発を呼び解決を困難にします。日本国民の大半が規制強化に賛成とか、愚かな話だ。愛国心が国を不幸にするのをまだ分からないのかな。

きでの文字が世界を踊らすので迷惑ですぞ。世界の指導者たる貴殿が世界中に直接発信するのは危険ですぞ。仲の良いシンゾーさんから『ツイッターは世界のリーダーには危険！』とアドバイスして差し上げましたらお聞き届けいただけますか？

私が米国人なら貴殿に票を入れないぞ！

パリ環境協定から離脱しても孤立させない。シンゾーさんはTPPから離脱した貴殿を復帰に説得すると、二国間協議は行わないと日本国が言っていたはずがいつのまにか自動車関税に戦々恐々とさせられている。エルサレムをイスラ

エルの首都と認めゴラン高原でのイスラエルの主権を認めてイスラムの敵意をあり、ゴラン高原をトランプ高原と名づけてもらいご満悦。いけませんよ



米朝会談 板門店 (北側を望む)

トランプ大統領閣下、米中貿易摩擦を引き起こして世界中に不安を掻き立てても、国際社会から糾弾されずに米中会談が世界の耳目を集める。貴殿のペースで世界が動くのは正に貴国の力ですな。

もとより、取り引き上手な貴殿のことですから、アメリカ・ファースト——米国の利益のみの追求の最大効果を考えての言動なのでしょう。我国は貴殿の一挙手一投足を注目し一喜一憂しています。貴殿は北の日本向け中距離ミサイルは問題ないと言い、日米安保は不公平、高額兵器を爆買いさせた。拉致問題に確かに言及したかも知れないが効果は未知数だ。シンゾー氏は『対話の為の対話は意味がない』と言いつつ続けたのが、貴殿に従って『無条件の対話』と国民に説明もなく180度転換せざるを得なかった。貴殿のアキレス腱も大統領選挙、国民の世論ですな。その1年半かけての大統領選挙なのに投票率はたった48・62%とは。米国民の4分の1の人が反対党に投票することを人類の幸福のために期待しています。

恭子の日記 ⑬

笑顔は見守られる愛から

生まれるらしい

母が72歳の時、父は癌になった。軍人であった我慢強い父はなかなか痛みも言わず、わかったときには手遅れの状態だった。

父ははるばる九州からやってきた。東京で医者をしていく夫の病院に引き取られ、母は付かず離れず父のお世話をした。一ヶ月の命と言われた父は母と共に一年生きた。「絶対に助からないとは言わないでくれ」と母に懇願され、私たちは母の気持ちを一番に尊重し何も言わなかった。ある日父が残った力を振り絞るように身の回りの片付けを始めた。「恭子ちゃん、のんちゃん（私の妹）、お母さんを頼むよ」と言った。さらに父は「もう字を書くことも難しいからビデオを回してくれ」と私に言った。「恭子も伸子もいい旦那様に巡り会ったからお父さんのものはお前たちにはあげずに全部お母さんにあげるようにする、それでいいね？」と私たちに

言った。私も妹も「もちろんそれが一番良いことだけれども、どうしてそういうことをいうの？」と父に聞いた。父はニコニコしていた。

母は父がいなくなる寂しさに耐えきれず、父に「お父さんがいなくなったら私はどうしたらいいの？」と言ってしまったらしい。信頼する父に全てのことを任せていた母は父がいなくなった世界を想像できなくなっていた。父は母の為なら何でもする人だった。例えば母が自分の服を選ぶとき長い時間、父は嫌な顔一つせず、直立不動のまま母のバッグを持って壁の前に立っていた。「どっちがいいと思う？」と母が聞くと、服に関心のない父は値段を見て、高い方を指差し、「これがいいね」と言った。

労働も年末の買い出しのような肉体労働も全て父がやっていた。父は母をまるで自分のお姫様のように大事にし、仕えていた。

生きていた間は父にとっても母にとってもそれは自分たちの思いの満足するところであり傍で見ても微笑ましい限りだった。けれど父が母よりも先に行くと言ったことを予想した人は誰もいなかった。



「陽だまりの縁側にいる母を思い出して」
(中田恭子さんの作品)

九州を離れたがらない母について妹はずっとずっと母のそばにいてお世話をしてくれている。父を送ってから早や22年、母ももう94歳になった。けれど妹が毎日私にテレビ電話で母と会話をさせてくれるおかげで母は私を忘れない。認知が進んでいるので毎日テレビ電話で会うたびに「恭子ちゃん、お久しぶり、元気にしてる？」と笑いかける。後ろで妹が笑っている。母もつられてまた笑う。繰り返し返す明るいひと時をテレビ電話

で毎日過ごす。

いろんなことを忘れると言う自分を自覚しても、イライラもせず、そういう自分も「困ったものね」と笑って流す。母のように私も歳をとって行けたらと願うばかりだ。

母はすごい。すべてのことを受け入れ、明るく生きているのだから。だから、私達姉妹、家族だけでなく、母の妹夫婦もいとこ夫婦も主人の親

兄弟もみんな母が好きだ。母は私の最高のお手本だ。老いても明るい穏やかな母をお手本にみんな仲良く暮らせたら、と心から願っている。母が自分の祖母をお手本にしたように。(母は両親を13で亡くし祖母に育てられた)何か特別な仕事をするわけではないが、誰かの心を癒す人になる、それ以上の崇高な行いは無いとさえ思える。死んでなお大きな愛で包んでくれる父に見守られながら、私達も次の世代のお手本になれるように精進したい。

家は一昨年泣く泣く処分しました。長く空き家にしておくといけないので、処分して天の父に送りました。だから思い出はこの絵に詰めました。父が今あちらで住んでくれていると思います。

前も後ろも山。綺麗な空気が、山水が流れてくる谷間。蛍や赤とんぼが飛び、前の川ではうなぎもドジョウも取れ、幼い頃は川の中を近く友達と走り回っていました。この世の極楽のような土地でした。今は山の上まで家が建ち、蛍もいつの間にかいなくなりました。谷間の川には上からの濁った水が流れてくるようになりました。いいものができたり、なくなったり、川の流れるように時も流れていきます。せめて清い思い出だけは描き残そうと描きました。

横浜 中田恭子 (画柳会代表)

中田恭子さんの初の個展です。どうぞお出かけ下さい。銀座アートホール (03-3571-5170) 8月12日(月)~18日(日)『中田恭子の祈りの世界』(次の世代が幸せに安全に暮していけることを念じる心の表現です)。

「命に響く」本を売る

東京 前島 咲子

最近、街中で小さな本屋を見かけなくなりました。そういう店には大抵、ちよつと癖のある店主がいて、気の利いた面白い本を置いていたりしたものだ。

そんな店で気に入った本を見つけたらすると、それだけでワクワクした。店主の目も、スリル満点。また格別の楽しみがあった。そのうち、店の常連になると、店主が「こんな本が入ったよ」と教えてくれたりして、町の本屋は格好の遊び場であり、学びの場でもあった。

いまは、読みたい本に出会うために、仕方なく日本橋か御茶ノ水の丸善まで行く。だが、面白そうな本を探すには、大型店舗は広すぎ、本の数も多すぎる。足が棒になるほど歩き回らなければなら

いし、本の表紙を見ているだけで目が疲れてくる。後期高齢者には、重労働である。とどのつまり、何にも見つけ出せずに帰ってくる人が多い。

2月27日付けの朝日新聞経済欄に、台湾から「誠品」書店が日本に参入してくる、という記事が載っていた。この書店は、創業者が掲げた「命に響くような一冊」を探れる場にしようと、売れ筋や流行にこびない独自の品ぞろえで勝負している、という。今秋、東京・日本橋に開業する「COREDO室町テラス」に日本で最初の店・誠品生活日本橋を出す、とのことだ。

日本ではほとんど聞かれなくなった「命に響くような本」を売る書店なんて、ちよつと魅力的ではないか。秋になったら覗いてみたい。

余録

こんな話がありました。前号57号に『ドイツ進出奮闘記』のPRをしたら『ドイツ駐在時代の商売仲間』から購入問い合わせがあつて筆者と当該の縁で昔語りしたとか。

新人、酒井江東区議の選挙スタイル・政治への抱負を読んだ共鳴した読者が、酒井区議の報告会に参加されたそう。前号の特集で鎌倉名物スタンディングを紹介したら、草野さんに色んな反応があつ

て、当該2頁をコピーして拡散・宣伝をしていただきました。そんな折、ある方からこんな報告もいただきました。

「街頭でLIFE CROSSINGを配っても受け取らない人も多いと聞くが、自分はタクシーに乗る時に運転手に『俺たちこんなタウン誌をやっている、暇な時に読んでみて』と渡すそうです。これだと拒否されることはないし、少なくともパラパラと興味のあるページを見てくれる。「こんな方法で渡しても良いですね?」との連絡間

い合わせがありました。確かに、ゴミ箱直行便では困るがこんな方法も大いに歓迎。政治、経済、社会、文化に関心を抱いていたように広めていたきたい。

14頁の中田さんは銀座で初めてのお展を8月のお盆に開くそうです。

10頁メシアの丸山さんは9月に朗読劇を大塚で演じるそうです。お二人共会場でタウン誌を配布してくれるそうです。盛会をお祈りしています。

編集後記

前号で紹介した新人で江東区議に当選された酒井菜摘さんに政治家への決意、異色の選挙運動、区議としての抱負を書いてもらいました。6位で新人としてはトップ当選、区民もまだ捨てたものではないな。他方、参議院選挙はどうなるか、政界通の方に結果を踏まえて展望をお願いしました。選挙にコミットしようとして「薔薇キャンペーン運動」の池田香代子さんは今回は発

起人の立場で「反緊縮財政」を書いておられます。選挙の結果、安倍改憲はどう動くか?憲法論議の一環としてイスでの駐在生活が長かった宮内氏に同国の法律環境を書いていただいた。信州のロザリアンさんは天皇制に疑問を投げかける。日本にまだ天皇制を論じる自由があると小子は信じていた。それと歴史と文学のロマンを語る阿部氏には、江戸時代最も名君と言われている米沢藩主、上杉鷹山を紹介してもらいました。そういうえば鷹山も会津の松平容

保や一橋慶喜も養子さん、養子は優秀か?いや優秀だから養子に選ばれた。慶喜の子孫は参議院静岡地方区で立憲から出馬。落選した。憲政史上最長の安倍さんは政権担当能力が優れているのか?それとも野党の迫力不足か?国民の意識の低さか?裏表紙はお決まりの増山麗奈さん、戦地イラクを訪問した記事ですが、我々自身は安全な所に身を置いて平和を叫んでいる感じがするのは小子のみかな。

偏見のサングラスを外しましょう

～イラク戦争での文化交流を通じて～

東京日野市 増山 麗奈

(映画監督・画家・平和運動家)

あなたが生まれてからずっと歪んだサングラスをかけていたとします。ある日それを外すことができれば、どんなにスッキリするでしょう。洗脳はサングラスのようなもの。私は15年前、戦火のイラクでサングラスがパリンと割れました。

アメリカがイラクを攻め込み、フセイン像が倒された直後でした。報道番組を見ても反戦デモに出ても、戦争放棄の憲法があるはずの日本から自衛隊が派兵されたことに納得いきません。「そうだ。イラクでも私のような芸術家がいるはず。会いに行こう」。当時、日本のどの大学でもイラク文化研究専門の教授を見つけれませんでした。私は東京藝術大学の美術学部出身ですが、入学してから中東の芸術を学ぶ機会がありませんでした。芸大で学ぶほどどこのアートは白人男性の手によるものでした。

私がイラクに芸術を探しに行くというと、日本一の現代アートの画廊ギャラリー代表に「洗脳された国に現代美術があるわけがないだろう」と鼻で嗤われました。悔しいので絶対かっこいいアートを発掘してきてやるわ！と心の中指を立て、イラク行きの飛行機に飛び乗りました。ヨルダン国境から、陸路でイラクに入りました。戦後の混乱で水道や電気がよく止まるなど不便な環境です。父親を米軍に拉致されて泣

く赤ちゃんを抱えたイラクのお母さんや、学校が空爆され青空で学ぶ子ども達、劣化ウラン弾の被害でガンの多発や遺伝子異常に苦しむ人々に会い、どんな美辞麗句が使われても、戦争は弱いものを傷つけるものであると知りました。混乱の中でもイラクの首都バグダッドでは銃弾の痕が



増山さんとイランアート作家・ウィサムラディ氏

残る街に30箇所以上の商業ギャラリーがあり、中流以上の方の家には普通に絵が飾られていました。古典的なもの、銅版、木版、彫刻、具象・抽象、アニメ様々なタイプの作品があります。イラク戦争では10万人以上が戦死したと同時に文化も

破壊されました。チグリフ・ユーフラテスの歴史を持つ文化遺産が展示されている美術館や博物館、図書館が燃やされたのです。空爆の翌日バグダッド芸術大学教授のカーシム・サブテイ氏が図書館を訪れ、灰と化した本を手取るのと分厚い背表紙が燃え残っていました。カーシム氏は、背表紙を洗練された粹なカラージュ作品に変え、ニューヨークでも展示、売り上げの数百万円をバグダッド芸術大学の学費に充てました。空爆中も、停電中も、カーシム氏は自身の経営するヘワードギャラリーを1日も休まずオープンし続けました。

戦争という圧倒的な暴力を前に、文化の灯火を消さず、アイロニーを込めた作品を作り、人々が集う暖かい場所を作り続ける姿勢こそが、知性で、希望だと感じました。同時に、豊かな感覚を持つイラクの人々を、文明を持たない野蛮人のようにしか報じてこなかった欧米メディアの偏り、大学など権威の中にある歪んだ価値観を思い知ったのです。私たちは「価値が高い存在と低い存在がある」「価

値のない民族は攻撃しても良い」という間違った考え方を日々刷り込ままれています。世界中の歪んだサングラスを外し、互いの違いを尊重し合う美しい世界を作るというのが、私の生涯の目標となりました。

武器産業に牛耳られたアメリカ経済は、15年に1度大きな戦争を行うことで維持されてきました。そう、まさに今。イランのタンカーが攻撃されたことに対して、トランプ大統領がイラン攻撃のボタンを10分前に押すのをやめたとツイッターで呟くなど一触即発の状態が続いています。もうやめませんか？騙されて

みんながいじめあう負のループ。日頃から互いの文化や真実の情報を知り合い、観光・文化交流を通じて良い関係を築くことが、結果として、戦争を防ぎます。世界各国の文化を紹介する一般社団法人ユーラシア国際映画祭を立ち上げ、世界27カ国との文化交流企画を成功させてきたのも、その信念からです。パレスチナのジャーナリスト支援も始めます。一緒に活動したい方は連絡ください。

●月額で、増山麗奈を応援して、一緒に文化の楽園を作ろう！↓オンラインサロン

<https://camp-fire.jp/projects/view/101978>

●まぐまぐのメールマガジンもぜひ <https://www.mag2.com/m/0001685127.html>